

令和元年第 12 回 安芸太田町教育委員会議録

招 集 年 月 日	令和元年 10 月 15 日 (火)	
招 集 場 所	川・森・文化・交流センター 3 階 大会議室	
開 閉 会 日 時	開 会	令和元年 10 月 15 日 (火) 午前 9 時 30 分
	閉 会	令和元年 10 月 15 日 (火) 午前 10 時 10 分
出 席 ・ 欠 席 委 員	出席委員	二見吉康・清胤祐子・河野義文・池野博文・河本千絵
	欠席委員	
職務により会議に出席した者	生涯学習課長	上田 隆
	学校教育課長	児玉裕子
	主幹	萩原英子
	課長補佐	浅田敬文
会議に付した事件及び採決結果		
報告協議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 11 月の行事予定について 2 第 7 回科学アカデミーについて 3 コミュニティ・スクールについて 4 その他 	

【 議 事 録 】

日程第1 開会

(午前9時30分開会)

日程第2 教育長報告

教育長)

おはようございます。台風19号の被害がこの地域では大きな被害がなく通り過ぎましたが、関東、東北の方では死者や行方不明者の数が増えている状況です。今日の議題で公開に馴染まないものがございますか。

(ないと思います。)

日程第2 教育長報告

教育長)

では、このまま進めさせていただきます。

(以下の項目について報告)

1 9月～10月の学校等の状況

- ① 第7回科学アカデミー(9月21日)
- ② 加計高校体育祭(9月25日)21日雨天による延期
- ③ テレビ会議による教頭事務長研修会(10月3日)教委・各学校間
- ④ 第10回山県郡小学校陸上記録会:5・6年生(10月8日)北広島町運動公園
- ⑤ 全国町村教育長会理事会(10月10・11日)東京
- ⑥ 安芸太田町社会教育委員会議(10月15日)川森文化C
- ⑦ 【予定】広島県中学校教育研究会・生徒指導部会研究大会(10月16日)加計中
- ⑧ 【予定】広島県小学校外国語パワーアップ事業研修会(10月18日)加計小
- ⑨ 【予定】安芸太田町ハロウィンパーティ(10月18日)川森文化C
- ⑩ 【予定】新しい学びプロジェクト研究会浜田大会(10月18・19日)浜田市
- ⑪ 【予定】県市町教育委員会連合会研修会(10月23日)アークホテル広島

2 広島県中学校教育研究会・生徒指導部会研究大会(10月16日)加計中[再掲]

- ・加計中六訓
- ・無言清掃
- ・知識構成型ジグソー法による「協調学習」授業

3 次年度の学級編成と人事構想について

- ・児童生徒数の出入りの確認(基準日10月1日)
- ・配当基準に基づく教員配置を基本とした人事構想
- ・学級担任・主任等の構想、研究大会・研究公開等の予定
- ・特別な支援を要する児童生徒の把握と関係機関との連携

4 全国町村教育長会理事会・文部科学省行政説明から(10月10・11日)[再掲]

- 5 服務規律の徹底について
- ・交通事故の未然防止
 - ・教職員による不祥事の未然防止

清胤委員)

全国町村教育長会の会長ご就任おめでとうございませう。町の誇りですし、ぜひともこの町の教育に反映していただけたらと思っております。みんなであれしく思っております。おめでとうございませう。

河野委員)

併せまして、私もそういう教育長さんのもとで教育委員をやらせてもらい、期待もしておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

教育長) ありがとうございます。

日程第3 報告・協議

教育長)

11月の行事予定についてお願ひします。

上田課長)

(生涯学習課報告事項について説明)

教育長)

11月の行事予定について説明がありました。何かご質問ございませうか。よろしいですか。それでは、報告協議2 第7回科学アカデミーについてお願ひします。

萩原主幹)

(第7回科学アカデミーの状況について説明)

教育長)

科学アカデミーについて、何かご質問ありませうか

河野委員)

参加者25人の小学生と中学生の内訳を教えてください。

萩原主幹)

小学生は4年生以上で、多くは中学生が参加しています。第1回目のプログラミングは入門コースでしたので、7～8名の児童が参加していたと思ひます。できるだけ、隣同士で教え合いができるように席を組みましたので、上から2番目の写真にあるように、1台を中学生と小学生で見えています。

河野委員)

小学4年生と中学3年生でギャップというものはなひのでしょうか。

萩原主幹)

同じものをするのに特に差があるようなことはないですが、写真の中学生は昨年も参加しており、上手くリードをしています。ただ、昨年から1年空いていますので、思い出しながらという感じです。中学生同士も教え合いながらという状況です。

河本委員)

学校でもプログラミングのようなことはされていますか。この教室では、学校でするのは違う高度なことをしていますか。

萩原主幹)

学校でどの程度しているのかを十分把握ができておりませんが、小学校でするのは入口でスクラッチを使っているのかもしれませんが、その部分は今回のプログラミングの内容と似ています。第2回の内容は、学校ではそこまでできていないと思いますが、同じことができるように、今年度同じロボットを購入したので、後半にかけて活用してくれる学校があるのかなと思っています。加計小学校はクラブ活動でプログラミングをする時間があって、子どもたちは以外とスクラッチを勉強したら、楽しんでいろいろなことをしているということです。それは、全体ではないので特別活動の中ですが、小学校ではプログラミング教育がぼちぼち始まっているという状況です。

河本委員)

子どもが「楽しい」というようなことを言ってました。クラブ活動でさらにされるのはいいですね。集中してできる時間があって。

池野委員)

写真を見ると、子どもたちが楽しそうで表情が生き生きとしてうらやましいと思いましたが、学校の先生方もプログラミングの研修をされるんでしょうが、全体でされますか、それとも科目とか限定されるのでしょうか。

萩原主幹)

小学校にプログラミング教育が入った時に、国の示しているものは各教科で、例えば算数とか理科のこの単元で使えますよという例示があります。小学校教員でプログラミングについて深く造詣を持っている者はそう多くいませんので、そういったモデルを使いながらとか、総合的な学習の時間にプログラミング教育の体験のような形で入れることもできます。そのあたりは国の方でもここでないといけませんというようなものはありませんし、どの教科でもまんべんなくというものでもありません。できることからしていくということで、小学校低学年では、パソコンを使わなくても物事の手順ができていと上手いくよということを考えさせるということもプログラミング教育です。例えば、お楽しみ会ではじめの言葉から終わりの言葉までの間にきちんとプログラムができていると、問題なく終わりますよ、上手いかなかったのはどこかなというふうに返せば、それもプログラミング的思考となりますので、学年に応じて教員がそういうことを意識して指導しているかどうかが大事だと話しているところです。

河野委員)

この科学アカデミーは、先進をいくものなのか、それとも補足していくものなのか、どうでしょうか。

教育長)

科学アカデミーの始まりは、民間企業が出前で科学実験教室をするのがありますが、そういうのではなくて、本当は理科の先生が理科クラブを持ってやってほしかったんですが、授業もあり部活動もありでは難しいので、なんとか外部の人材を招き入れて専門家にやってもらったら、高度なサイエンスが学べるのではないかとというのがあって、知り合いの技術士会にお願いしたら快くボランティアとしてやってくださることになり、今年で7年目を迎えました。ねらいとしては、学校で学んだ上を追及できるような教室をやりたいと思っています。これまでも今回よりももっと高度なものをやってきていますし、これが理科や算数、数学、社会に跳ね返ればいいと思っています。広島で大災害があった時には、奇しくも土石流についてしたことがあります。日常生活に関わりのあるものから今回のようなものもあると。私としては、ワンステップ上の理科クラブをしたいと思っています。講師の方は、各分野のトップ級の方ばかりです。

河野委員)

参加した子どもたちの理解はどうでしたか。

教育長)

技術士会のみなさんを紹介したときには、日本の様々な分野を支えてきたトップレベルの方ですと紹介しています。説明は、子どもたちが理解するには難しいことを言われます。ですが、黙って聞いてくれていますので、学んでくれているものはあると思います。

教育長)

報告・協議3 コミュニティスクールについて説明をお願いします。

萩原主幹)

(コミュニティスクールについて説明)

教育長)

これは、4ページにあるように物事を決めるというより、学校運営協議会を置くように努めなければならないということで、すべての学校が対象になっているわけです。そういう点でうちはまだ6分の2です。将来的には100%にしていく必要がありますが、しっかりと狙いをもって理解をいただきながら進めるということです。加計小は広範囲で4つの学校が集まって新しい学校を作ったという点で加計中学校と同じエリアですが、早く一丸となっただけという意味を込めて加計小で早くやらせてもらいました。同じように安芸太田中についても、戸河内中と筒賀中のエリアが広範囲ですので、新しい枠組みとして早く保護者や地域のみなさんが一体化してもらいたいという願いを込めてやらせていただいたところです。残りの学校はそれぞれ小学校区をもっておりますので、そういうスクールにしていくのかという点で、教育委員会でもいろいろご意見と一緒に考えていただけたらと、協議に上げさせてもらいました。よろしくをお願いします。

河野委員)

学校評議員や評価委員とありますが、この運営協議会との違いを再度教えてください。

教育長)

評議員は、学校がやりたいことを報告したり意見を聴くことです。評価委員会は、学校の自己評価を示して、その評価が正しいかどうか見ていただいて、より正しい評価になるようにご意見をいただくものです。学校運営協議会は、校長として今年度どういう学校づくりを

していくかということについて学校の思いを出して、承認をもらうというものです。承認できない場合は、修正しなければなりません。

これまでこの制度については、街のことで田舎には関係ないという感じでした。地域のご意見や協力をいただき、地域の特色を生かしながら学校教育をやっていたので、わざわざそんな組織を作らなくてもやっているというのが、中山間地域、町村レベルでの考え方でした。都会の地域や保護者などの関係が薄いところがあるのでということ、地図にもあるように東北などもそうですし遅れ気味でした。最近では趣旨の理解が得られてきています。

学校運営協議会の中で学校でやりたいことを示して、修正を加えながら承認を得るという一歩進んだものをやっています。年度途中で状況を説明して中間評価を受けて、年度の終わりには報告をして最終評価を受けますので、評価委員会の役割もあります。さらに、人事に関して意見が言えます。「あの先生はこうしてくれ」というのではなく、例えば「この部活動を強化したいので、そういう指導者を考えた人事をしてほしい」というような方向性の意見が言えるということなんです。

私が踏み切ったのは、九州のある町で中学校は先行的に1校にしていたんですが、小学校6校をまとめて1校にされました。中学校の保護者は歴史があるので円滑にまとまるんだそうです。小学校の方は、6つの意見がバラバラで統合初年度は大変だったそうで、みんな新しい学校を作るんだという気持ちのために始められたようです。加計小もそういう意味でみなさんで盛り上げてもらいたいという思いで導入しました。今ある学校は単独ですから、どういうコミュニティがいいか、みなさんのご意見をいただきたいと思います。

萩原主幹)

今ちょうど話題に載っていたところが資料2の15ページ、16ページにあります。参考までにご覧ください。

河本委員)

意見を広く求めてではなく承認をもらうというのは、どういう効果があるものですか。これまである程度学校に任せているところがあると思うので、承認されないことによっていいことになることもあるし、悩ましいときもあるかもしれないですが、今の現状はどうですか。

萩原主幹)

今、言われましたように学校評議員会では、校長がこういう学校を作りたいということで地域がミッションを受けてしていくことについて、尋ねてみて評価をしてもらうというところでしたが、学校運営協議会は16ページを見ていただくと「保護者や地域の方々が一定の権限をもって学校運営に参画することにより、目標やビジョンを共有して、社会総がかりで子供たちの健全育成や学校運営の改善に取り組むことを目的」とするということなので、立場が同じ土俵の中で地域の子どもたちをどんな風に育てるのか、学校の場面を使って地域の力を入れながら、目標が共有できるということがあります。校長の意見にはいい、いいですではなく、地域の意見も取り入れるので合議体ということ。両校の学校運営協議会は、最初はやはり学校評議員会の延長のような会議でしたが、今年度当たりから特に加計小では、学校でやりたいこと、子どもの様子を共有する中で、地域の力をどうやったら上手く学校へ取り入れられるかということ相談させてもらい、保護者を含めて地域に学校がやってもらいたいことをボランティアで募集するのはどうかという意見をもらい、動き始めているところです。学校でやりたいことを核に地域の力を得られるのかというアイデアをいただくというのが運営協議会になっています。安芸太田中は反対に生徒たちが地域に出かけていっています。学校でやりたいことを各学校に合わせた方法で、双方に無理のない範囲でやっていけた

らと思っています。

河野委員)

加計小学校の評議員をやっていたことがあり、何回か会議をして学校の活動について問われますが一方通行でしたが、この運営協議会では、学校のやりたいことを地域も理解しながら共にやっていくということで、そうなればいいと思います。

教育長)

広島県でうちを含めて6市町ありますが、中には学校では庭木の剪定や除草に困っていませんか、ミシンを使うのに担任だけでは不安とか、ガスコンロを使っての調理も油は使えないのでそういったものの協力あったらとか、英語が堪能な保護者や地域の方にお手伝いいただけたらとか、結局、学校のがままばかりを言うんですが、一緒に育てる、協働するんだという雰囲気を作りたいという町もあります。市内あたりにはそういった人材はいらっしゃりますが。

河野委員)

社会福祉協議会の関わりが学校と地域のつながりという点であると思いますが、ボランティア清掃や見守りなど上手くいかないこともあり限度もあるようですが、やらなければいけないというようになってくるとは思います。

教育長)

府中町や市などは高齢化率低く、海外生活経験者や大学、民間など技術士会のような人がたくさん人材がおられる。反対に高齢化率が高く、少子化、産業も少なく親は共働きという状況では同じことはできないので、うちの町ではどんなコミュニティスクールができるのかという特徴を出さないといけないと思っています。

清胤委員)

加計小学校図書館のリニューアルを野うさぎ文庫がお手伝いすることになったというのを会報で見ましたが、いいことだなと思いました。校長先生も学校訪問のときに触れておられたので、子どもたちの健全な図書館利用と一緒にするんだなど。そういうことがコミュニティスクールがあることで広がっていくのはすばらしいことで、加計小と安芸太田中に導入した第一義は一つにまとめるということでしたが、これからはより多くのアイデアや人材を地域の子どもたちの教育に活かしていくということが、他の小学校や中学校でも大切にすべき課題だと思います。こういう法律もでき、補助金をもらう関連のものとかあると思いますので、上手に受け止めて進めていくべきだと思います。

教育長)

生涯学習課ではこれに関連したものがありますか。

上田課長)

10日に県庁で会議がありまして、国からの方針で放課後子ども教室の補助金が、コミュニティスクールを実施していない状況ではカットされるという方向性になりつつあると。ただ、今後、来年、具体的に作る意思があるかどうかというところまでのようで、県もまだ国の内容が固まっていないので詳細がない段階です。まだコミュニティスクールを全くしていない市町もあります。例えば、今年度立ち上げてないと、来年度補助金がもらえないということになるとかなり困っているという状況で、11月か12月に生涯学習課と学校教育課に対

して県が意見聴取をするということです。いずれにしてもかなり混乱した会議で、どこも国の補助金で運営しておりますので、これがなくなると市町にとって人件費含め大変なことで、お手元の資料で説明があったという状況です。県の担当者も不確定なところが多いということで、報告を受けて帰ってまいりました。

教育長)

今後、安芸太田町でも残っている学校について、いつごろコミュニティスクールをするのかという計画が必要ということですね。

上田課長)

そうです。国が本腰を入れてそういう意向を出してきたというのは確実なことで、いつまでというのは、先ほど申し上げたようなことで不確定です。

河野委員)

放課後子ども教室とは違うもう一つの加計保育所の跡にできる放課後児童クラブは間に合うのでしょうか。

上田課長)

町長の意向として、小学校の空き教室に人数の規制があってそれを超えている児童の対応をということで、児童育成課と連携して筒賀にある放課後児童クラブを加計に設置することを県と協議して、今年度補助を含めて段取りができたので、開設を実施する方向です。児童育成課が担当になりますが、これから実施設計と改修工事をして開設となりますので、今年度ぎりぎりだろうと思っています。

河野委員)

加計小の放課後子ども教室は続けながら、一部をクラブで受けるということですか。

上田課長)

放課後子ども教室は、安心して安全な場を作るという目的があり、放課後児童クラブは、根本的に留守家庭の子どもたちを受け入れるという目的があります。今後は連携して進めていくこととなりますし、放課後子ども教室の子どもは放課後児童クラブに登録することになります。

河野委員)

いずれにしても、この体制については、内容がわかりにくいので、なるべく早く保護者へお知らせするのがいいと思います。放課後児童クラブは保護者の苦情を受けて作るようになったととらえられているようです。

教育長)

筒賀にあるのは、基本的に夕方まで小学生を預かってもらいたいというのがメインで役割です。放課後子ども教室は、小学校ですが、ほかの地域は月に2、3回で年間数十日ぐらいの開設です。加計の場合は、放課後に預かってほしい家庭の子どもを全部預かっていたという状況です。役割が預かりも含めてやっていました。全員は無理でしたので、空条へ新たに全員預かれる施設をまずやろうということで、加計地域にはなかったですから、結果的に加計小で預かっていたというもので、機能が違うんですね。放課後子ども教室と放課後児童クラブは。

上田課長)

うちの方も児童育成課と連携して詳細がわかりましたら、説明会を行う予定です。月2、3回の事業を放課後児童クラブと連携してするのが、ほかの自治体でもしている本来の子ども教室の事業だと思っています。

清胤委員)

周知も大事ですし、家庭教育の大切さというのも盛り込んでいただいて、何でも利用すればいいというのではなく、振り返ったら本当に短い子どもとの時間を大切にしてほしいという趣旨を入れたらどうですかね。募集だけの情報だと、制度があれば利用しないと損のようになりますよね。

教育長)

これを機会にそれぞれの機能についてよく説明をして、利用の仕方を理解してもらうということですね。

上田課長)

そうですね。親に選択をしてもらわないといけないので、そのあたりを含めて説明が必要だと思います。

池野委員)

住民のニーズにすべて応えるのは難しいと思います。情報を伝えた中で、ある程度の交通整理は必要だろうと思います。それから、学校運営協議会については加計中学校は特に必要だろと思います。

教育長)

その他ありますか。

浅田課長補佐)

(教育委員へ研修会のお知らせ)

教育長)

以上で第12回教育委員会議事を終わります。ありがとうございました。

(午前10時10分 閉会)